

歩行の評価に基づくハンドリング実技

榊原白鳳病院リハビリテーション科

山本吉則

神戸リハビリテーション福祉専門学校

伊藤正憲・嘉戸直樹

動作は多数の筋による目的をもった運動であり、運動を円滑に行うためには多くの筋群が協調的に働く必要がある。臨床において動作を評価するには、まず複数関節がどのように連動して運動しているかを分析する必要がある。この適切な分析がなければ、セラピストのハンドリングは全く無意味なものになってしまう。

歩行は最も基本的な移動の手段である。日常生活では前方だけでなく後方へも移動がおこなわれる。また、側方へステップして障害物を避けたり、方向を変えたりする。前方歩行や後方歩行に関する関節運動や筋活動については、多くの研究がなされており、動作を解釈する際には、その詳細を十分に理解しておく必要がある。歩行動作を分析する際には、まず関節運動を正確に捉え、筋や関節といった運動に関与する筋骨格系について考える必要がある。また、ハンドリングは、触れる部位、触れ方、力の強さと方向への配慮が必要である。

本セミナーは、以下の流れで実施していきたいと考えている。

- 1) 歩行動作の解釈に必要な筋活動についての概説
- 2) 脳血管障害片麻痺患者を想定した姿勢の変化が前方ステップに及ぼす影響についての紹介
- 3) 前方ステップにおける評価に基づくハンドリングの実技

当日は、どうぞよろしくお願ひ致します。